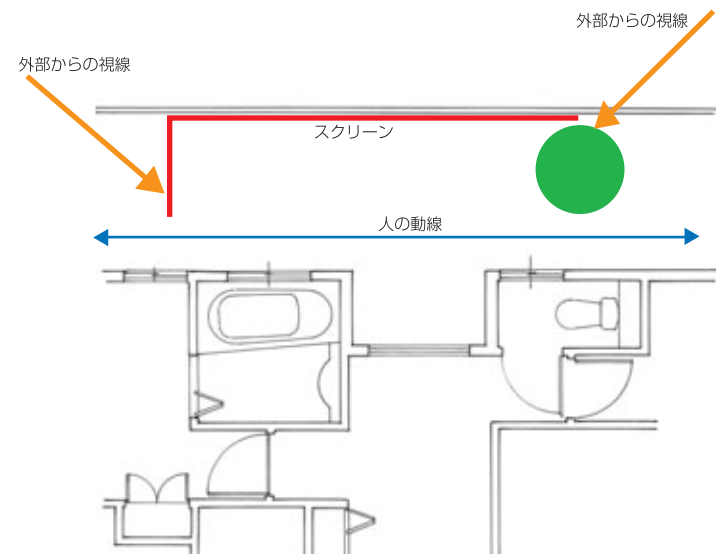


Point2: バスルーム前の坪庭は外部からの視線もチェック

今回のケースでは隣にバスルームもあるので、そちらに対する配慮も必要となります。バスルームは外部から覗かれないようにしなくてはいいませんが、背景となる目隠しのスクリーンを折り曲げたり常緑の植栽を配置するなど、斜め横方向からの視線を確実に遮断することができます。ただし、清掃などのメンテナンスも考慮し、人の動線は確保しておくようにしましょう。



Point3: 庭の背景が重要

坪庭の場合、室内から眺めることがメインとなりますので、庭そのもののデザイン以上に背景に対する配慮がとても重要になります。隣地境界が今回のように万年塀やブロックフェンスなどの場合は、坪庭の背景としては不十分です。

また、まったく同じ庭のデザインであっても背景のスクリーンによってイメージも大きく変わってきます。提案したい庭のコンセプトに合った背景を選択するよう心がけましょう。



背景が万年塀の場合



背景がブロックフェンスの場合



背景が竹垣の場合



背景が縦格子の場合

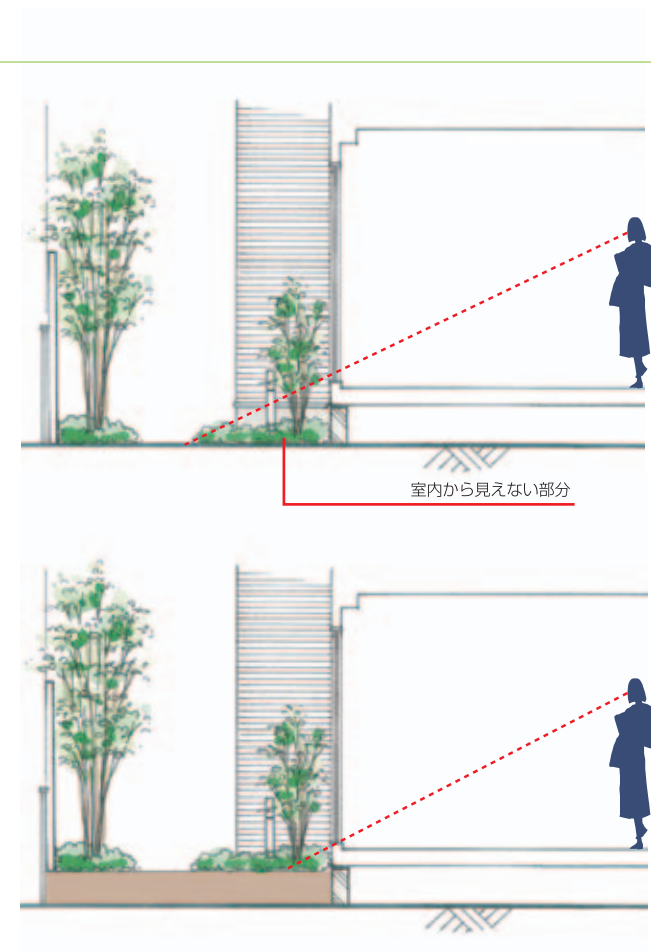


背景が採光タイプのスクリーンの場合

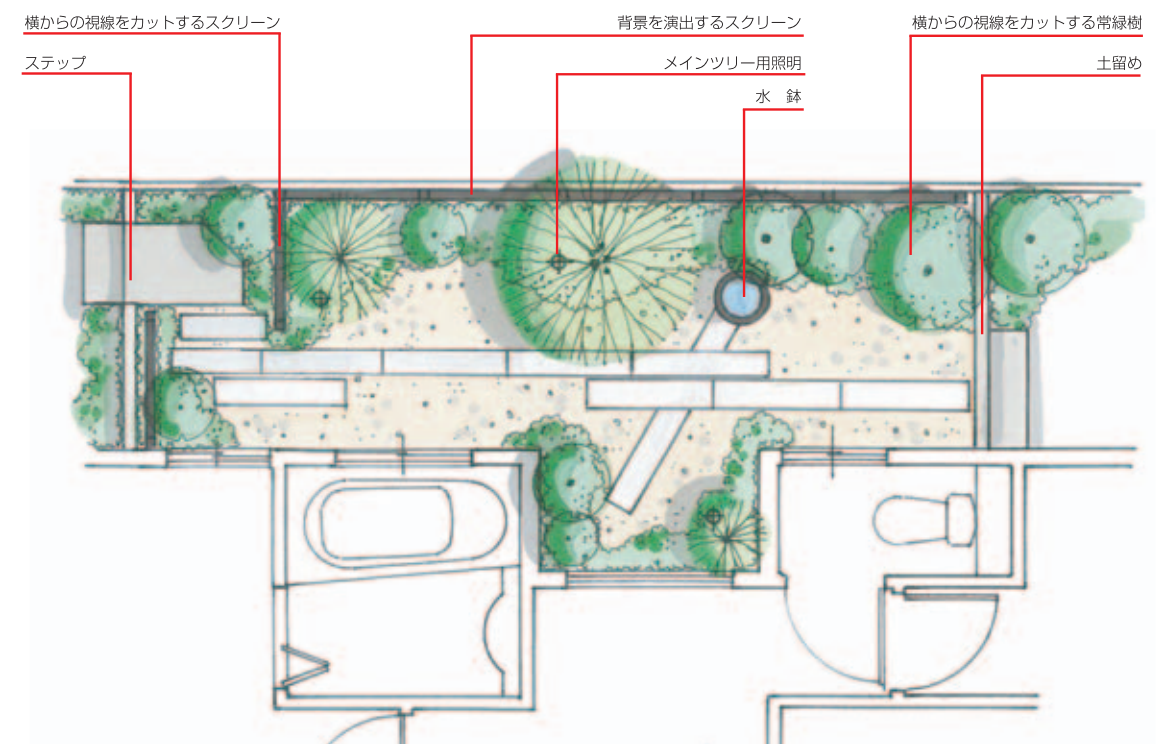
Point4: 室内と屋外の一体感を演出

一般的に室内の床の高さはG.L. から +600 mm 前後となります。坪庭を作る場合、そのまま G.L. 上で計画すると、室内から眺めた時に手前部分はほとんど隠れて見えないことになってしまいます。

可能であればこの部分に客土し、少しでも室内の床の高さと近づけることをお勧めします。この際、注意しなくてはいけないのは床下の換気を阻害しないようにすることです。最近の建築では基礎の天端に換気パックンを挟むケースが多いので、これよりも若干低めに客土し、雨水が床下に流れ込まないようにしておかなくてはなりません。また、排水桝の有無も確認し、場合によっては高さの調整が必要になることもあります。



モデルプラン



狭いスペースであっても魅力的な空間を提案しなくてはいい坪庭はこのようなポイントを参考に考えてみてください。

さて、10 回目を迎えた当講座も今回で最終回となります。少しは日頃のプランニングのお役に立てましたでしょうか。この講座ではさまざまな条件を設定し、プランの考え方を解説してまいりました。お客様に感動を与えるデザインはしっかりとした考え方があってこそ実現します。この講座でお話させていただいたことを忘れずにこれからも頑張ってください。